

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
<p>1 学習環境の充実と「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくり、「わかる授業」の取り組み</p>	<p>① 落ち着いた雰囲気の中で日課をスタートさせるために5分間の朝学習にしっかり取り組ませる。</p>	<p>落ち着いた雰囲気の中で、朝学習に取り組んでいると答える生徒の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満</p>	<p>B 評価 86% (昨年 = 90%) A 47% + B 39% = 86% 4月～12月 平均1日あたり6.17人</p>	<p>定時に登校し、落ち着いて朝学習に取り組む生徒は9割近くいる。一方で、諸事情で遅刻の改善が困難な生徒は増加した。今後、保護者との連携をこれまで以上に密にすることで遅刻を減らし、クラスの生徒がそろった状態で学びに向かうことができるよう指導を継続したい。</p>
	<p>② わかりやすい授業づくりの一環として、特にクロムブック等のICT機器を効果的に活用した授業づくりに努める。</p>	<p>生徒による授業評価において「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 ※ ただし、実習科目を除く</p>	<p>A 評価 88% (昨年 = 81%) A 61% + B 27% = 88%</p>	<p>生徒による授業評価では、教員が「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価は88%であった。7月の86%から2%増加して、A評価となった。クロムブック等の活用が浸透してきているといえる。一方で授業における活用方法などの課題もまだまだあり、今後も活用方法の改善に取り組んでいきたい。</p>
	<p>③ 主体的・対話的な授業づくりを目指し、発表活動を効果的に取り入れ、生徒が意欲的に授業に取り組めるようにする。</p>	<p>生徒による授業評価において、「生徒が発言や発表、学びあいをする場面が多い」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>B 評価 88% (昨年 = 78%) A 59% + B 29% = 88%</p>	<p>生徒による授業評価において、「生徒が発言や発表をおこなう場面が多い」と回答する肯定的評価は88%、となった。昨年度までのC評価から、初めてのB評価となった。新型コロナウイルス感染症が5類感染症となったことで対話的学習が実施しやすくなったことに加え、見通しカードの活用を推進してきたことが改善につながったと考えられる。今後も生徒が発言や発表する場を増やしていけるよう授業改善に取り組んでいきたい。</p>
	<p>④ わかりやすい授業づくりを目指し、板書や教材、話し方や説明などを工夫する。</p>	<p>生徒による授業評価において「授業を受けて理解できたと感じる」「先生の授業は教え方の工夫を感じる」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>A 評価 92% (昨年 = 85%) A 62% + B 30% = 92%</p>	<p>生徒による授業評価において、「授業を受けて理解できたと感じる」「教え方の工夫を感じる」と回答する肯定的評価は92%であった。昨年度と比較して7%増加し、A評価となった。今年度の指導の柱の1つである「わかる授業」の推進が上手く機能し、授業の改善や工夫が進んだと考えられるので、継続して取り組んでいきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>ICT化の中で、生徒が活用する機会が進んでいる。上手に授業ができる先生のツールを蓄積していったらよいのではないかと。そのツールを使うことで授業の平準化ができるのではないかと。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>教材教具の共有や、協働は意識的に取り入れているところであり、手本となる授業の手法を共有し、互見授業の期間も活用しながら授業者による差異のない、授業の平準化を進めていく。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 生徒の適性に応じた志望進路の実現	① 生徒が主体的に将来の進路をしっかり考え、進路実現に向けて取り組むよう、各事業の事前・事後学習を充実させる。	学校の進路説明会、企業実習等が、主体的に将来を考える上で役立っているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B 評価 84% (昨年 = 86%) A 42% + B 42% = 84%	1年生が86%、2年生が76%、3年生が87%となっている。3年生の評価が昨年と比べて低く、役立っていないという評価が8%あった。例年と比較して進学を希望する生徒の比率が高い学年で、就職中心の行事に物足りなさを感じる生徒がいた可能性がある。今年度、外部講師を招いて上級学校の説明会等を実施して対応したが、次年度は内容が更に充実するよう工夫していきたい。
	② 生徒と保護者が進路について話し合う機会を持てるよう、資料や情報を活用しながら面談等で働きかけ、生徒の進路意識の高揚を図る。	家庭で、生徒・保護者が将来の進路について、話しているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B 評価 77% (昨年 = 80%) A 29% (保 25%、生 33%) B 48% (保 55%、生 40%) A + B = 77%	1年生が69%、2年生が76%、3年生は89%となっている。学年が上がるごとに数値も上昇する傾向は例年と変わらないが、昨年と比較して1年生の数値が低くなった。12月に実施していた「ふるさと企業を知る会」（1・2年生対象）と2月実施の志賀町工場見学（2年生対象）を入れ替えて実施したことで、1年生の進路行事が年内になくなったことが影響していると思われる。進路について話し合う材料として求人票のWeb閲覧を1・2年生にも広げていきたい。
	③ インターンシップ前に、実施の目的を丁寧に説明し、基本的な接遇指導を繰り返して徹底して行う。	受け入れ事業所の実施後アンケートにおいて、生徒の接遇に関する肯定的に評価した企業数が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	A 評価 99% (昨年 = 99%) A 63% + B 36% = 99% 実習日誌（研修担当者評価）	ほとんどの企業が実習による評価が良いものであった。また、長期企業研修は10社で20人が行った。勤務態度はどの企業からも良い評価を得ている。今後も生徒が自信を持って実習に臨むことができるよう事前指導を行っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	卒業して県内ですぐ就職するのよいが、県外で学び地元に戻って就職するのよいのではないか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	生徒の希望する進路実現のために幅広い選択肢を示しながら、本人・保護者の納得のいく進路先の決定が長い目で本人にとってプラスになるよう取り組んでいく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 特別活動の推進による学校の活性化と規範意識の醸成	① 生徒指導課と教職員、公安委員で、朝の挨拶運動に取り組む。	生徒の学校評価において「積極的なあいさつができています」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 73% (昨年 = 73%) A 25% + B 48% = 73%	今年度の朝の挨拶運動は、生徒会執行部と公安委員の協力のもと実施した。昨年度と同じ結果となったものの、生徒自ら積極的に挨拶する形が定着してきた。今後は挨拶の意義を改めて踏まえた上で朝の挨拶運動を継続していき、取組を粘り強く進めたい。
	② 生徒のボランティア活動や地域への貢献活動等の参加を積極的に推進していく。	ボランティア活動や地域の活動に参加することで、ボランティア意識や自己有用感が高まったとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 79% (昨年 = 70%) A 31% + B 48% = 79%	今年度は、ボランティア週間の実施により生徒のボランティアに対する意識の変化が見られた。例年行っていた学校周辺美化活動やサマーボランティアなども積極的に参加が見られた。何より、生徒の主体的な参加によって、20周年記念式典が成功裏に終わった。今後もボランティアの体験を通し、自己有用感が高まるような取り組みを継続し進めていきたい。
	③ 基本的な生活習慣の確立のため、1日の活力のもととなる朝食の習慣化を目指した指導を行う。	心と体の健康調査において、朝食を食べていると答える生徒の割合が A 85%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	— 評価 — % (中間 = 72%) A - % + B - % = - % ※今年度の新しい取組であるため、昨年度の比較データなし	3学期始めにアンケートを行う予定だったが、令和6年能登半島地震のためアンケートを行うことができなかった。中間報告を受けて取り組んできたことを継続していきながら、「朝食を毎日食べる」と回答する生徒が増加する取り組みを今後も継続していきたい。アンケートの実施時期については、再検討し、来年度の指導につなげたい。
	④ 朝の登校指導及び昼の校内巡視を通して、頭髪服装を整えることや、規範意識の大切さを繰り返し指導する。	登校指導や校内巡視の際に、生徒に声かけをしているとする肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C 評価 88% (昨年 = 87%) A 40% + B 48% = 88%	今年度は、職員の生徒に対しての声かけが少し上昇した。とくにAのよくあてはまると答えた職員は10%増えた。今後も、各ホーム担任だけでなく、全職員が、生徒たちに対して、積極的にあいさつ、声掛けを徹底していくよう、働きかけていきたい。
	⑤ いじめのない学校づくりを目指し、学校生活全般を通して全教職員が生徒の変化を見逃さないような取組を行う。	アンケートや面談での生徒理解や、校内巡視等を通して、生徒の動向を把握し、いじめの未然防止と早期対策に努めているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 評価 92% (昨年=91%) A 40% + B 52% = 92%	6月と10月に全校生徒対象に生徒指導アンケートを行い、気になる生徒にはホーム担任が個人面談を行った。面談以外にも、生徒の変化を見逃さないようにアンテナを高くし、ホーム担任・部活動顧問等が必要に応じて面談を行っている。今後も、毎日の昼休みの学年団による校内巡視と生徒の動向把握を継続し、いじめの未然防止に努めたい。
学校関係者評価委員会の評価	企業としてどのように学校に協力できるか。例えば、学校で作っている野菜等を店舗で販売し、「ありがとう」と感謝されることでやってきたことが本人に返る、そんな場を提供していきたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	地域に開かれた教育課程の実現において、地元企業との連携は有効な機会であり、積極的に推進していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 地域から信頼される開かれた教育課程の推進	① 専門高校として地域社会と連携した実践的な学習を推進する。	専門学科での地域と連携する事業や学習において実践的な取り組みができているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満	D 評価 63% (昨年 = 61%) A 26% + B 37% = 63%	総合学科では農業系列での徳田駅の植栽や近隣の幼稚園・保育園の園児とのサツマイモ収穫体験、ビジネス系列は和倉温泉観光協会の協力を得ながら和倉温泉観光ガイド「御便殿ツアー」に取り組んできた。また、演劇科は地元まちづくり協議会主催のタウンミーティングで本校ならではの発表を行い、好評を得た。これらの活動を軸に、今後は地域との連携や関わりを通じた実践的な学習を学科全体ですさらに進め、生徒の自己存在感や自己肯定感を高められるよう努めていきたい。
	② 部活動の指導方法等について顧問が研鑽を深め、生徒の意欲を引き出す効果的な指導の工夫・改善に取り組む。また、部加入促進や部員の自信をもたせ、経験を積ませる指導を行う。	1・2年生が部活動に、週の活動日に対して、8割以上参加しているという肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 72% (昨年 = 85%) A 47% + B 25% = 72%	多くの生徒が部活動に加入するものの、生徒自身のビジョンの未熟さによる意欲の減退と指導者自身の指導方法の行き詰まり、未経験の競技の指導等が部活動の停滞につながっている。生徒にはスモールステップを設定し、目標をクリアすることで得られる達成感を意欲向上に結びつけたい。また、指導者は積極的な研修受講や他校との情報交換や交流を通して自己の指導力の向上を図っていく。部活動の情報発信にも努めていきたい。
	③ 本校の教育活動の様子をホームページや校門前掲示板を活用し、学校外部へ効果的に情報を発信する。	本校の教育活動の様子を学校外部に効果的に情報発信ができているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 評価 93% (昨年 = 87%) A 57% + B 36% = 93%	昨年度と比較し6%増加した。今年度はホームページをより見やすくなるよう改良し、部活動ごとの情報発信がしやすくなるよう部活動のページを整えた。今後も学校行事の様子や3つの学科の活動内容、部活動の内容など、多種多様な情報発信に努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	企業としてどのように学校に協力できるか。例えば、学校で作っている野菜等を店舗で販売し、「ありがとう」と感謝されることでやってきたことが本人に返る、そんな場を提供していきたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	地域に開かれた教育課程の実現において、地元企業との連携は有効な機会であり、積極的に推進していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5 教職員の働き方改革の推進	① 教職員一人ひとりが、有機的に連携協働し、具体的な手立てを明確にすることを通して、業務の効率化に対する意識を高め、働き方改革を推進する。	教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいるとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 評価 97% (昨年 = 83%) A 31% + B 62% = 97%	昨年比14%の増加でA評価となった。今年度は新学習指導要領に基づいた学習指導・評価が2年目となり軌道に乗り、また、見直しを持った周知な計画による業務の遂行が定着してきた。その結果、勤務時間は総じて減少している。今後も、意図的・計画的な業務で、さらなる働き方改革を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	働き方改革について、進んでいる印象である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	働き方改革について、今後更に見直しを持った業務の取組と、業務内容の平準化を進め、働きがいを持っていくことができるよう取り組んでいく。			